

生存圏研究所

I	研究水準		研究 22-2
II	質の向上度		研究 22-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、「生存圏科学」の創成を目的に、四つの研究ミッション(「環境計測・地球再生」、「太陽エネルギー変換・利用」、「宇宙環境・利用」、「循環型資源・材料開発」)を組織として推進する分野として明確にするとともに、新規性に富んだ学際・萌芽プロジェクトの推進を目的とした生存圏学際萌芽研究センターを設置して、関連新規分野の開拓についても配慮された研究推進体制を整備している。また、全国共同利用研究所として、共同利用のための開放型研究推進部も設置している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択件数は約 60～70 件の範囲で推移し、獲得金額の増加が認められ、順調に推移していることなどは、優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、共同利用・共同研究の実施状況については、全国・国際共同利用を実施する組織として「開放型研究推進部」を設置し、海外を含めた共同利用の推進に組織的取組を行っている。また、共同研究設備の共同利用実績、データベースの公開、共同研究集会の定期的開催等を通じた共同利用の実績があることが認められるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、生存圏研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、生存圏研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、研究所の四つのミッションに関連して、多くの研究成果が公表されている。「大気圏観測技術の開発」「インドネシアを中心とする赤道大気力学の研究」「バイオナノファイバー材料の創成と研究拠点の形成」について、卓越した研究成果が上げられている。その他の課題についても複数の優れた成果を上げている。また、「卓越した」あるいは「優れた」という評価を受けた業績の比率も高い。社会、経済、

文化面では、位相制御マグネトロンの開発研究、低環境負荷・資源循環型木造エコ住宅の開発、木材の老化機構の解明と新規な人為的促進老化処理法の開発等、優れた研究成果がある。また、過去3年間で、紫綬褒章を含む国内外から15件の受賞実績があることなどは、優れた成果である。

以上の点について、生存圏研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、生存圏研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は6件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。